

平成26年度病害虫発生予察特殊報 第1号

チャトゲコナジラミの発生について

佐賀県

1. 病害虫名 チャトゲコナジラミ (学名:*Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai)
2. 発生作物 チャ
3. 発生の経過と概要
 - 1) 平成26年3月27日に、県西部の一部茶園において、葉裏にトゲコナジラミ類幼虫の寄生を確認した(写真1、2)。
 - 2) 採集した幼虫を農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、県内未発生のチャトゲコナジラミ(*Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai)であることが確認された。
 - 3) 発生状況について3月28日に調査したところ同圃場の周辺圃場一帯で発生が確認された。
4. 本種の形態、特徴等
 - 1) 形態
 - ・成虫の体長は約1.1~1.3mm、体色は橙黄色であるが、白粉で覆われているため灰色に見える(写真3)。前翅は紫褐色で通常9個の不整形の白紋がある。
 - ・孵化幼虫は淡黄色で、2~4齢幼虫は光沢のある黒色の楕円形で周囲に白色口物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する(写真2)。幼虫の体長は約0.2~1.3mmである。
 - ・卵は長さ0.2mm、淡黄色の勾玉状である(写真2)。
 - 2) 国内での発生状況

本種は当初、ミカントゲコナジラミのチャ系統として発生が報告されてきたが、平成23年3月にチャトゲコナジラミとして新種記載された。チャトゲコナジラミは平成16年に京都府で初確認されて以来、平成26年4月現在で27都府県で発生が確認されている。
 - 3) 生態
 - ・卵、1~4齢幼虫を経て成虫になる不完全変態の昆虫である。年間3~4世代発生し、主に3齢及び4齢幼虫で越冬した個体が、翌春に成虫になる。越冬世代成虫の発生時期が一番茶の生育期~摘採期と重なる。
 - ・幼虫は、葉裏に寄生し、孵化直後の幼虫は歩行するが、定着後の幼虫は移動しない。
 - ・成虫の寿命は2~4日間と短い、羽化後まもなく交尾し、主に葉裏に産卵する。
 - ・チャの他、ヤブツバキ、サザンカ、サカキ、ヒサカキ、シキミ等にも寄生する。
 - 4) 被害

成虫及び幼虫が葉を吸汁加害するほか、幼虫が排泄する甘露がすす病を誘発する(写真4)。成虫の発生が茶葉摘採期と重なるため、摘採作業中に成虫が目や口に入り、作業に支障をきたすことがある。
5. 防除対策
 - 1) 幼虫は下位葉の葉裏に多く生息し、成虫は新芽によく集まるので、定期的にこれらの部分の葉裏を観察し、発生が確認された茶園では速やかに薬剤による防除を行う。防除薬剤等詳細については、「病害虫防除のてびき」を参照する。(病害虫防除のてびき掲載ホームページ：http://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/_1075/_32933/ns-nougyou/_50453/_50529.html)
 - 2) 成虫は他のコナジラミ類と同様に黄色に誘因されるため、黄色粘着トラップを茶園に設置し、

発生を確認する。

- 3) 薬剤防除の適期は、若齢幼虫発生期である。成虫の発生がおさまった頃が、次世代の若齢幼虫発生期であるため、成虫の発生状況をよく観察し、若齢幼虫の発生時期を把握して適期防除を心がける。
- 4) 冬期には、幼虫に対してマシン油乳剤による防除を行う。
- 5) 散布は、寄生の多い下位葉の葉裏に十分にかかるように丁寧に行う。また、薬剤がかかりやすくするため、薬剤散布前に深刈せん枝やすそ刈り等を行う。
- 6) 寄生の多いすそ葉の葉裏へ薬液をかかりやすくするため、すそ部から茶株頂上部へ向けて斜め上方に薬液を散布する。
- 7) 発生地域からの苗木、生葉及び人等の移動による本虫の拡散に注意する。特に、改植園については防除を徹底する。
- 8) 中刈り、深刈せん枝により、発生園の葉を除去する。刈り落とした枝葉は本虫の発生源となるため、土中に埋却する等適切に処分する。

6. 参考資料等

- 1) 農林水産省ホームページ

(<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryu2/>)



写真1 葉裏に寄生した幼虫

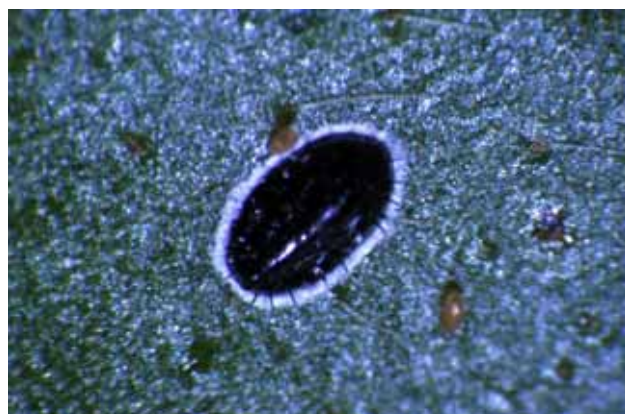


写真2 卵(淡黄色)および幼虫



写真3 成虫
(提供：京都府茶業研究所)



写真4 すず病の発生した葉
(提供：京都府茶業研究所)

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952)45 5297 FAX (0952)45 5085